

令和2年度第1回総合教育会議

日 時：令和2年7月27日(月)13時～

場 所：幕別町役場2階会議室A・B

1 開会挨拶

2 協議事項

- (1) 幕別町学校施設の長寿命化計画（素案）について
- (2) 幕別町スポーツ推進計画の策定について

3 その他

4 閉 会

【配布資料】

資料1 幕別町学校施設の長寿命化計画（素案）について

資料2 幕別町スポーツ推進計画の策定について

幕別町 学校施設の長寿命化計画
(素案)



令和 2 年 月

幕別町教育委員会

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

本町の小中学校の施設（以下「学校施設」という。）は、昭和 50 年代から帯広市のベッドタウンとして市街地の拡大により人口が増加したことに伴い、昭和 50 年代に多くが建築されましたが、それらの施設に老朽化の波が押し寄せており一斉に更新時期を迎えつつあります。

学校施設は未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活する場であるとともに、地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設です。

平成 25 年 11 月、国が「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性が打ち出されました。

これを踏まえ、平成 27 年 3 月、文部科学省は、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

本町においては、平成 29 年 3 月に「幕別町公共施設等総合管理計画」を策定し、保有する公共施設等の全体像を明らかにし、中長期的な視点から計画的に公共施設の総量や配置の適正化を図り、町民に持続可能な行政サービスを提供していくために、公共施設等の基本的な指針を示したところです。

今後、これらの指針を基に、学校施設の維持管理、老朽化に伴う長寿命化改修等に取り組むに当たり、厳しい財政状況の下、施設の安全性を確保し機能向上を図っていくためには、校舎等の使用年数を延ばし、財政負担の平準化に寄与する長寿命化の導入を検討する必要があります。

② 目的

本計画は、児童生徒が安心安全に学校生活を送れるよう施設環境を維持管理するため、老朽化の進む学校施設の現状と課題を把握し、これまでの対処療法的な保全方法から計画的に予防的な保全方法へと維持管理手法を転換することで、中長期的な維持管理等に係る経費のトータルコストの縮減や平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保することを目的とします。

③ 計画期間

本計画は、2021 年度から今後 40 年を見通すものとし、計画期間は 2021 年度から 2030 年度までの 10 年間を計画期間とします。また、実施実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、P D C A サイクルによる実行システムを構築します。また、計画の更新に関しては、5 年ごとに見直しを実施します。

(2) 学校施設の目指すべき姿

児童生徒の安心安全の確保、質の高い教育環境を推進するために学校・家庭・地域が一体となり教育のまちづくりを進めていくこととし、そのために学校施設の安全性・学習活動への適応性・地域の拠点化に重点を置いて学校施設整備を進めていきます。

1. 安全性

学校施設においては、小中学校の校舎及び体育館は耐震化に対応したものとなっている状況にあり、児童生徒が「学びの場」、「生活の場」として、安心して学校生活のできる施設整備を進めるとともに、災害時には避難所として活用できるよう防災機能を備えた施設整備を進める必要があります。

また、誰もが安心して施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインを取り入れる等のバリアフリー化を目指すとともに、地域住民にも安心安全に活用できる施設整備を進めていきます。

2. 学習活動への適応性

文部科学省の施設整備指針では、教育内容の変化に対応して、多様な学習内容・形態やICT化への対応など学習環境を確保し、将来の教育・社会の変化に対応できる柔軟な計画が重要であるとされています。

児童生徒の学びの場、生活の場として、快適に学習等ができるように適切な室内環境や遮音等を備えた良好な学校生活環境を確保し、障がいのある児童生徒への配慮や防災防犯等の安全性、LED照明など省エネ性能の高い機器類の導入のほか、自然エネルギーを活用するなど環境に配慮した施設整備を進めることが必要であるとしています。

3. 地域の拠点化

学校施設は地域の拠点となる場所であることから、地域に開かれた学校づくりを進めていくことが求められています。また、令和元年度から全ての小中学校においてコミュニティスクールを導入していることから、地域住民の活動拠点として社会的なニーズに対応できるよう維持管理を進めています。

(3) 学校施設の実態

1) 対象施設一覧

本町には小学校9校、中学校5校の計14校の学校施設があり、それぞれの建築年度及び面積は以下のとおりです。

学校名	校舎		屋内運動場		合計面積 (㎡)	
	建築年度	面積(㎡)	建築年度	面積(㎡)		
小学校	幕別小学校	S52	4,416	S53	981	5,397
	糠内小学校	S54	1,313	S53	561	1,874
	古舞小学校	S52	676	S52	364	1,040
	明倫小学校	S63	700	S53	337	1,037
	途別小学校	S57	909	S57	440	1,349
	白人小学校	S57	4,931	S57	909	5,840
	札内南小学校	S54	4,664	S54	775	5,439
	札内北小学校	S55	3,544	S56	762	4,306
	忠類小学校	S58	2,601	S58	1,084	3,685
	小学校計		23,754		6,213	29,967
中学校	幕別中学校	H5	4,508	S63	1,243	5,751
	糠内中学校	S54	1,763	H25	744	2,507
	札内中学校	S49	4,118	S50	1,289	5,407
	札内東中学校	S59	4,128	S60	1,237	5,365
	忠類中学校	S55	2,032	S55	978	3,010
	中学校計		16,549		5,491	22,040
合計		40,303		11,704	52,007	

表 幕別町学校施設一覧表

2) 学校施設の配置状況

幕別町立小中学校の配置は以下の図のとおりです。全小中学校 14 校のうち、幕別地区に 2 校、札内地区に 5 校、農村地区に 5 校、忠類地区に 2 校設置されています。

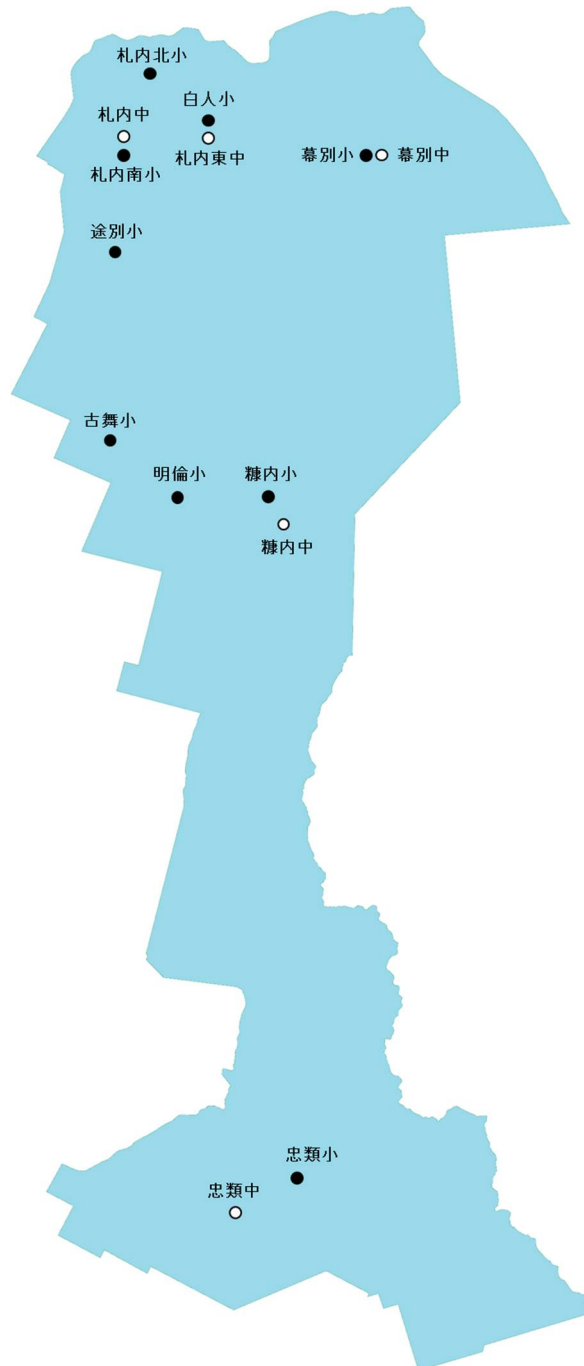


図 幕別町立小中学校配置図

3) 児童生徒数・学級数の推移

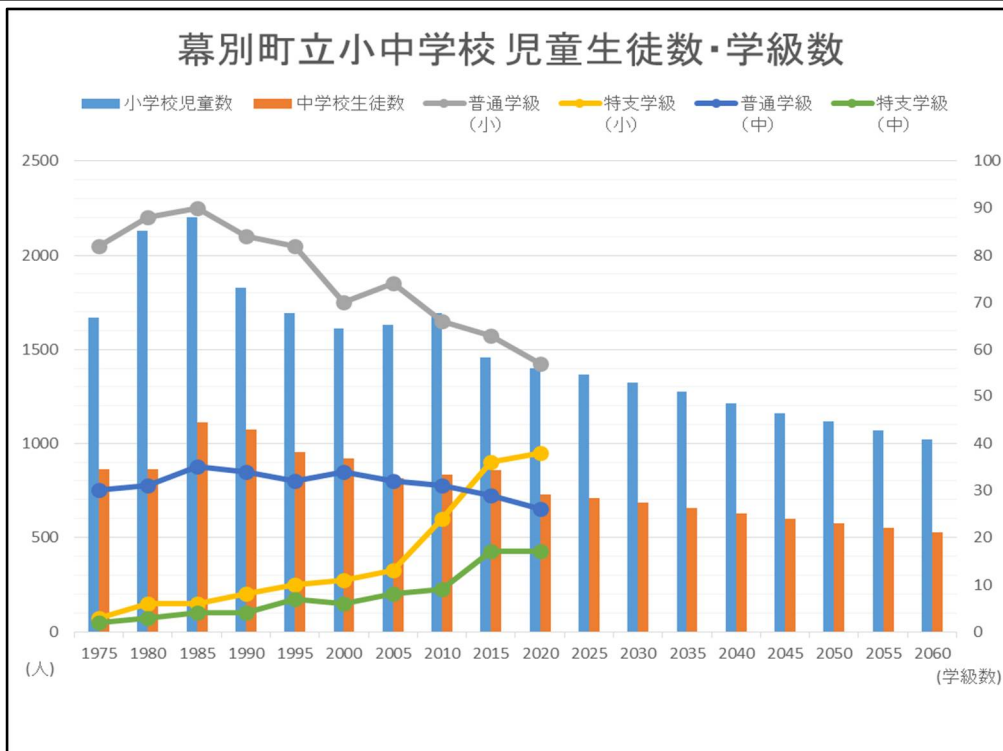


図 幕別町立小中学校児童生徒数・学級数推移

※2020年までは実測値、それ以降は推計値（「幕別町人口ビジョン」による）

	小学校児童数	中学校生徒数	普通学級 (小)	特支学級 (小)	小学校学級数計	普通学級 (中)	特支学級 (中)	中学校学級数計
1975	1,900	976	82	3	85	30	2	32
1980	2,382	970	88	6	94	31	3	34
1985	2,426	1,241	90	6	96	35	4	39
1990	1,982	1,184	84	8	92	34	4	38
1995	1,809	1,025	82	10	92	32	7	39
2000	1,698	978	70	11	81	34	6	40
2005	1,716	865	74	13	87	32	8	40
2010	1,694	833	66	24	90	31	9	40
2015	1,460	858	63	36	99	29	17	46
2020	1,401	726	57	38	95	26	17	43
2025	1,367	708						
2030	1,322	684						
2035	1,273	658						
2040	1,212	626						
2045	1,160	599						
2050	1,114	575						
2055	1,067	550						
2060	1,021	526						

4) 学校施設の保有量

学校施設は、築30年以上経過した建物が全学校施設の86%を占めており、全体的に老朽化が進んでいる状況です。また、昭和50年代から平成元年の間に建築された建物が多く、近年中に改築年の目安である築40年を迎える建物が多く存在している状況です。

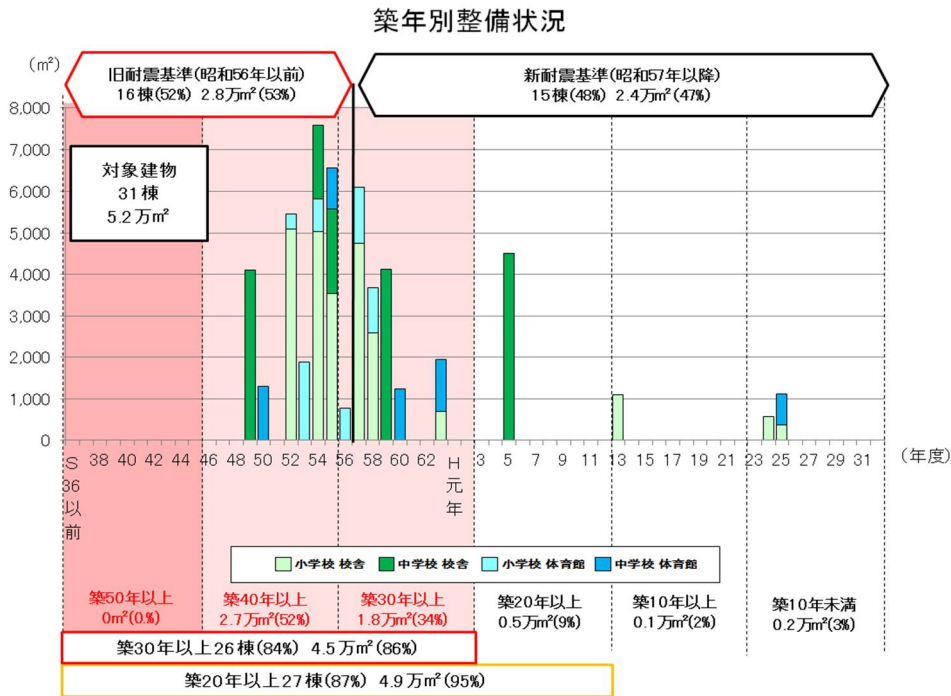


図 幕別町学校施設整備状況

5) 学校施設の劣化状況

幕別町立学校施設の劣化状況を把握するため、建築士資格を所持している町職員と学校施設担当者による学校施設劣化状況調査を実施しました。調査の実施にあたっては、文部科学省作成の「学校施設の長寿命化計画作成に係る手引き」等を参考に、部位毎の劣化状況を調査し、構造躯体（建物の構造を支える骨組）については「長寿命化」または「改築」、構造躯体以外についてはAからDまでの4段階に判定しました。

(1) 構造躯体の健全性

長寿命化において、建物を長期間使用していくためには構造躯体が健全であることが必要であるため、次ページのフローチャートに基づいて学校施設の構造躯体の健全性を調査しました。

(2) 構造躯体以外の劣化状況の把握

・評価基準

構造躯体以外の建物の5項目（「屋根・屋上」「外壁」「内部仕上げ」「電気設備」「機械設備」）については、次のページの基準により評価しました。

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上不具合発生の兆し）
D	劣化が著しく、早急に対応する必要がある

・健全度の算定

健全度とは、上記基準により判断された評価を基に 100 点満点で数値化した評価指標です。数値が小さいほど劣化が進んでいることを示しています。

○長寿命化の判定フロー

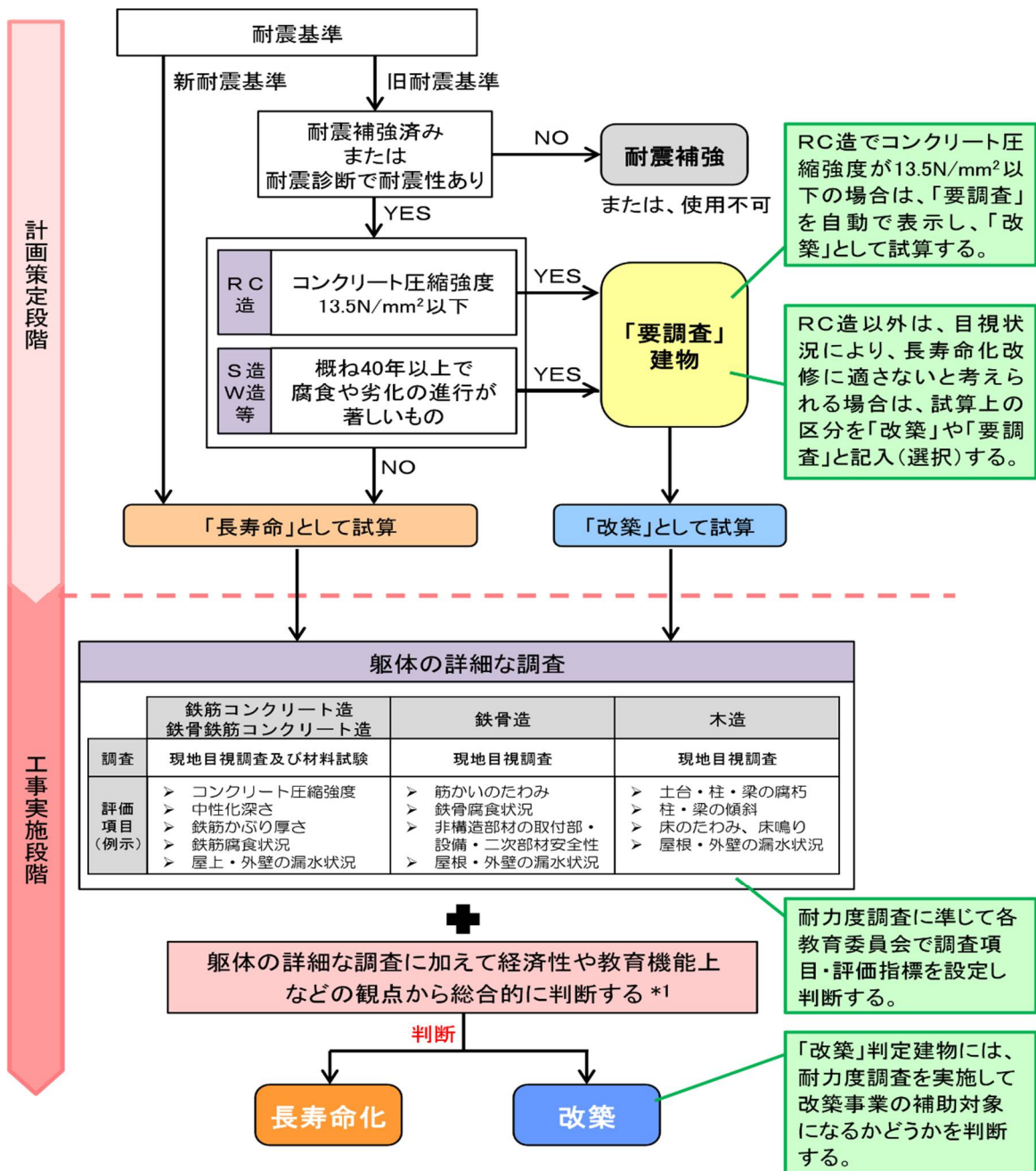


図 長寿命化判定フローチャート（文部科学省「学校施設長寿命化策定に係る解説書」より）

学校施設劣化度評価結果一覧

A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化 D : 早急に対応する必要がある
 : 築30年以上

建物基本情報						劣化状況評価					
施設名	建物用途	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
幕別小学校	校舎	2	4,416	S52	42	D	C	C	C	C	37
幕別小学校	屋体	1	981	S53	41	A	C	C	C	C	45
糠内小学校	校舎	1	745	S54	40	A	A	A	C	C	85
糠内小学校	校舎	1	568	H24	7	A	B	A	A	A	93
糠内小学校	屋体	1	561	S53	41	A	C	C	C	C	45
古舞小学校	校舎	1	676	S52	42	B	A	C	C	C	60
古舞小学校	屋体	1	364	S52	42	D	B	C	C	C	48
明倫小学校	校舎	1	700	S63	31	D	C	B	B	B	59
明倫小学校	屋体	1	337	S53	41	A	C	C	C	C	45
途別小学校	校舎	2	909	S57	37	B	C	B	B	B	65
途別小学校	屋体	1	440	S57	37	C	C	B	B	B	62
白人小学校	校舎	2	3,835	S57	37	D	C	C	B	B	46
白人小学校	校舎	1	1,096	H13	18	A	A	B	A	A	91
白人小学校	屋体	2	909	S57	37	D	C	B	B	B	59
札内南小学校	校舎	2	4,298	S54	40	D	C	C	C	C	37
札内南小学校	校舎	1	366	H25	6	A	A	A	A	A	100
札内南小学校	屋体	1	775	S54	40	C	C	C	C	C	40
札内北小学校	校舎	2	3,544	S55	39	D	C	C	C	C	37
札内北小学校	屋体	1	762	S56	38	A	C	C	B	B	54
忠類小学校	校舎	2	2,601	S58	36	A	C	B	B	B	67
忠類小学校	屋体	1	1,084	S58	36	D	B	A	B	D	71
幕別中学校	校舎	2	4,508	H5	26	D	C	B	B	B	59
幕別中学校	屋体	1	1,243	S63	31	B	C	B	B	B	65
糠内中学校	校舎	2	1,763	S54	40	C	C	C	C	C	40
糠内中学校	屋体	1	744	H25	6	A	A	A	A	A	100
札内中学校	校舎	3	4,118	S49	45	A	B	B	A	A	84
札内中学校	屋体	2	1,289	S50	44	A	C	A	C	C	68
札内東中学校	校舎	3	4,128	S59	35	D	C	C	B	B	46
札内東中学校	屋体	2	1,237	S60	34	D	C	B	B	B	59
忠類中学校	校舎	2	2,032	S55	39	A	C	C	C	C	45
忠類中学校	屋体	1	978	S55	39	B	B	A	C	C	75

図 学校施設劣化度評価結果一覧

6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

改築と大規模改造による従来型の維持・管理を行った場合の今後40年間のコストを試算します。

・コスト試算条件

改築 : 47年 単価 295,000円/㎡(総合管理計画による)

大規模改造 : 20年 単価 73,750円/㎡(改築単価の25%)

過去の施設関連経費 : 1.9億円 (過去5年間の経費の平均)

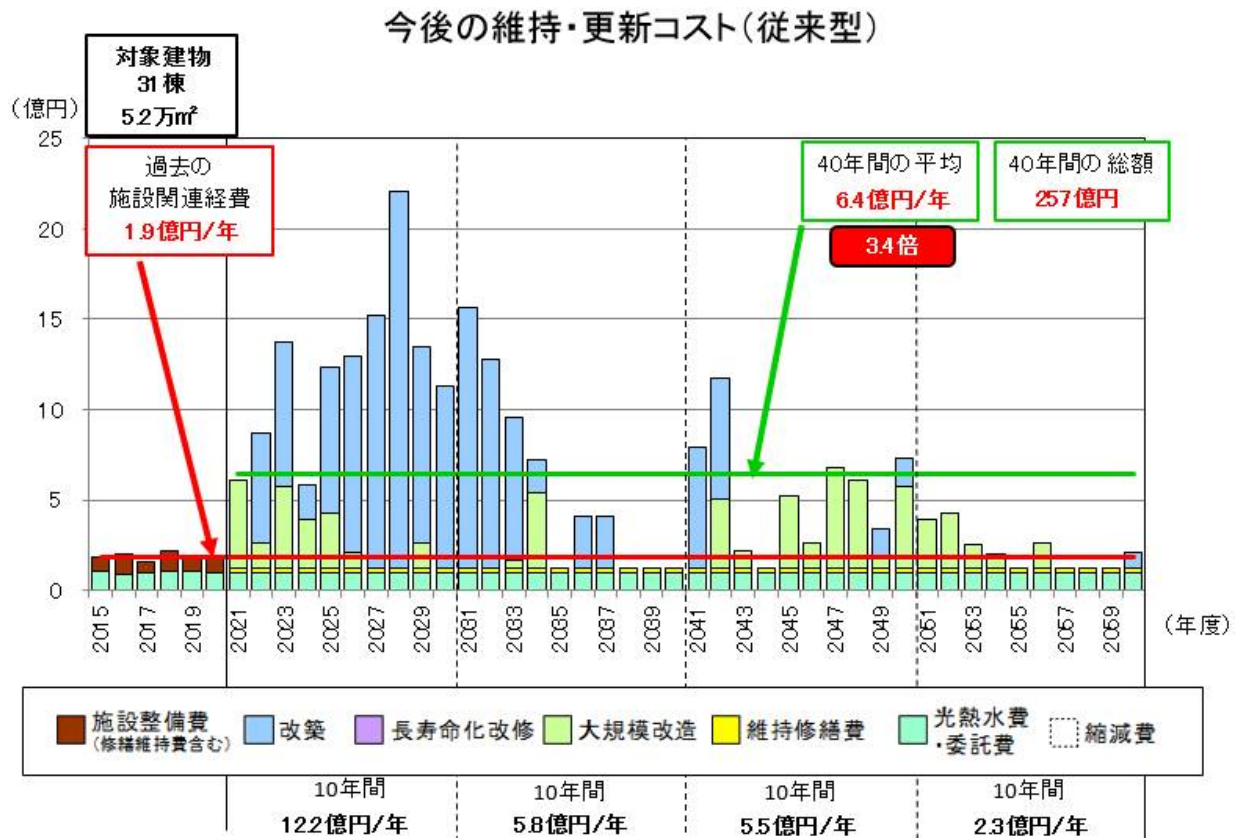


図 維持・更新コストグラフ（従来型）

従来型の施設の維持管理方法で今後40年間に掛かるコストを試算した場合、40年間の総額で257億円、1年間の平均金額で6.4億円かかる見込みとなります。また、2020年から2030年前半にかけて改築対象校が集中しており、この期間にコストが集中的にかかることが想定されます。

7) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

長寿命化型による維持・更新を行った場合の今後 40 年間のコストを試算します。

コスト試算条件→ 長寿命化改修：40 年 単価 177,000 円/m²(改築単価の 60%)

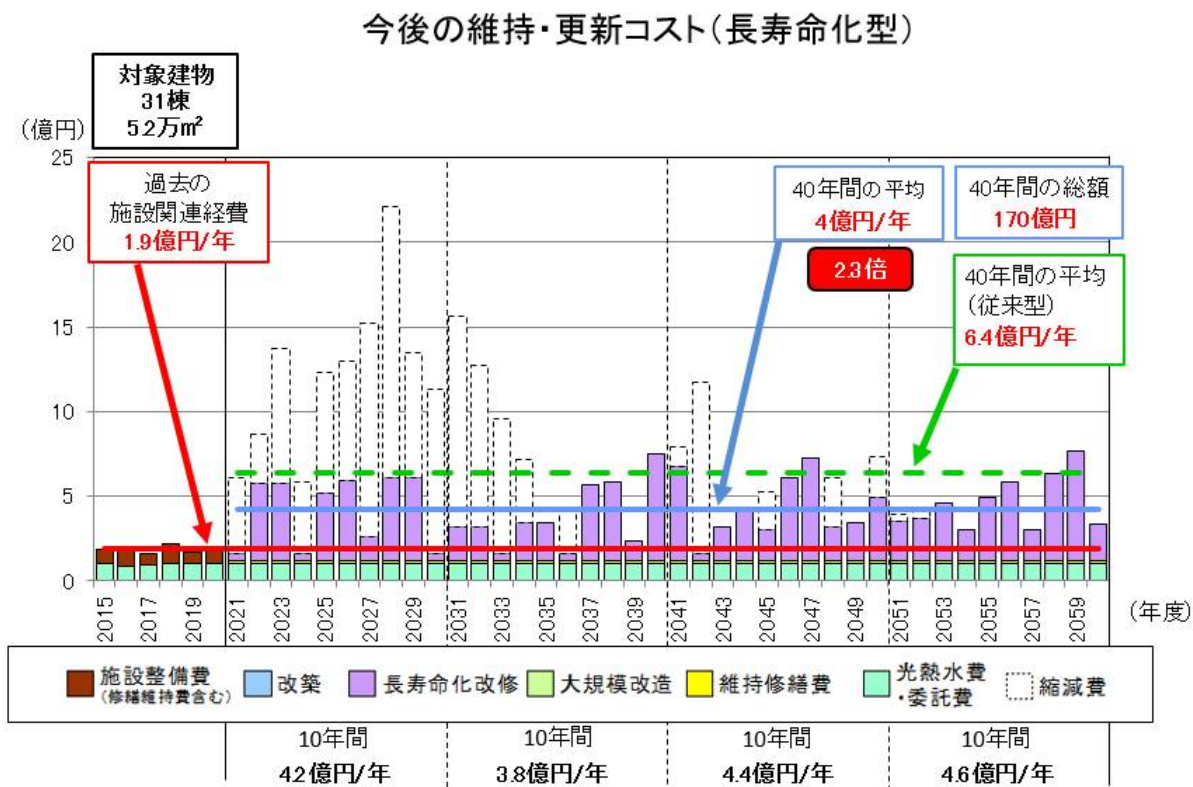


図 維持・更新コストグラフ (長寿命化型)

上のグラフは長寿命化型改修モデルにより試算したグラフです。改修費用が一定期間に集中しないよう、複数年に分散させて平準化させています。長寿命化型の手法で改修を行った場合、従来型の手法と比較すると、40年の総額で約 87 億円、平均で約 2.4 億円のコストを縮減することができます。

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

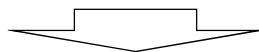
① 学校施設の長寿命化計画の基本方針

幕別町公共施設等総合管理計画の公共施設等の管理に関する基本的な考え方を踏まえ、学校施設長寿命化計画は以下の基本方針とします。

① 予防保全による長寿命化の推進

●幕別町公共施設等総合管理計画

- ・定期的な点検等により劣化や損傷を早期に発見することで、補修費用を削減するため施設の劣化状況を把握し計画的な施設の維持管理に努めます。
- ・施設の重要度・優先度に基づいた最適化手法について検討し、維持管理、修繕、更新を行います。
- ・施設量を維持する「施設重視」の考え方から「機能重視」という考え方への転換を図り、施設量の縮減を進める一方で、今後も維持していく公共施設については、本計画に準じて継続的に見直しを行います。



●幕別町学校施設の長寿命化計画

- ・今後、劣化が進んだ施設から順に、目標耐用年数80年まで使用できるよう建物の健全を回復するための改修を行います。その際には、財政状況を踏まえて、教育環境の質的向上や社会的なニーズに対応するための改修を検討します。
- ・町を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、社会情勢や町民ニーズを踏まえながら、5年毎に長寿命化計画の見直しを行い、中長期を見据えた財政負担の平準化やライフサイクルコストの低減を図ります。

② 安全性への配慮の推進

●幕別町公共施設等総合管理計画

点検・診断等によって、供用中の施設に高い危険性が認められた場合は、安全確保措置を速やかにとるとともに、補修や改修などの機能確保対策を検討します。



●幕別町学校施設の長寿命化計画

日常点検、定期点検などを通じて公共施設等の劣化状況を把握するとともに、災害発生時の機能保持のため、安全性の確保に努めます。

② 改修等の基本的な方針

(1) 方針

今後は、従来の改築中心の維持管理方法から、長寿命化改修工事等による建物の長寿命化方針に切り替え、事後保全的な改修ではなく、予防保全的に改修していくこととします。長寿命化方針では、築約 20 年（または長寿命化改修から約 20 年）を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約 40 年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約 80 年間使用できるように改修していくことでトータルコストを抑えます。

(2) 整備内容

○整備の進め方

劣化度調査結果を基本とし、改修の効率性等を総合的に勘案して決定する。

また、改修は校舎を優先とするが、屋体についても劣化状況を考慮して実施し、個別の整備内容や手法等については、本町の財政状況を十分に考慮して効率化に努め、毎年度の総合計画 3 カ年実施計画とあわせて協議する。

○老朽化への対応

建築から長期間が経過し、経年劣化により失われた建物の安全性の回復を図り、建物を将来にわたって長期間使用できるよう整備します。具体的には、水道、ガス、電気等のライフラインの更新、壁・床・屋根の断熱化等を行います。

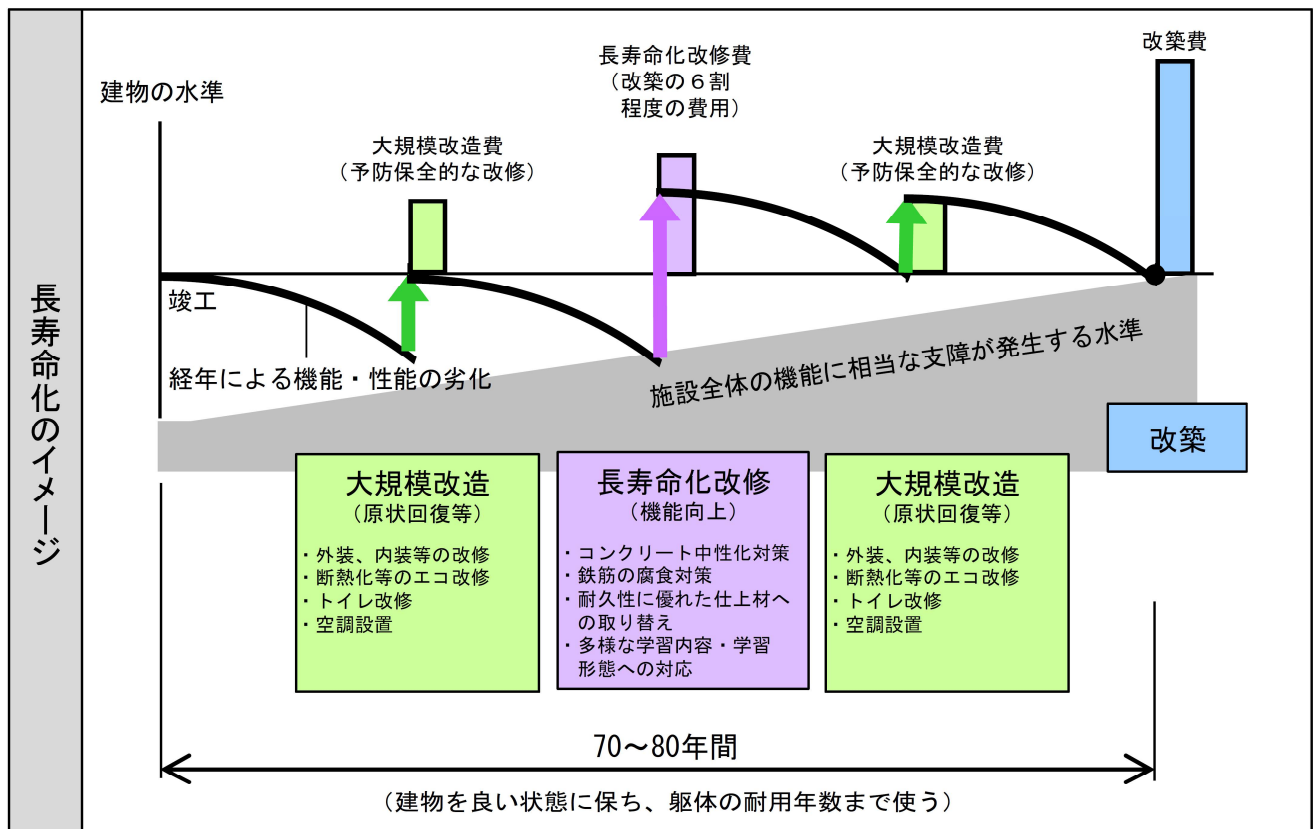
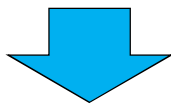
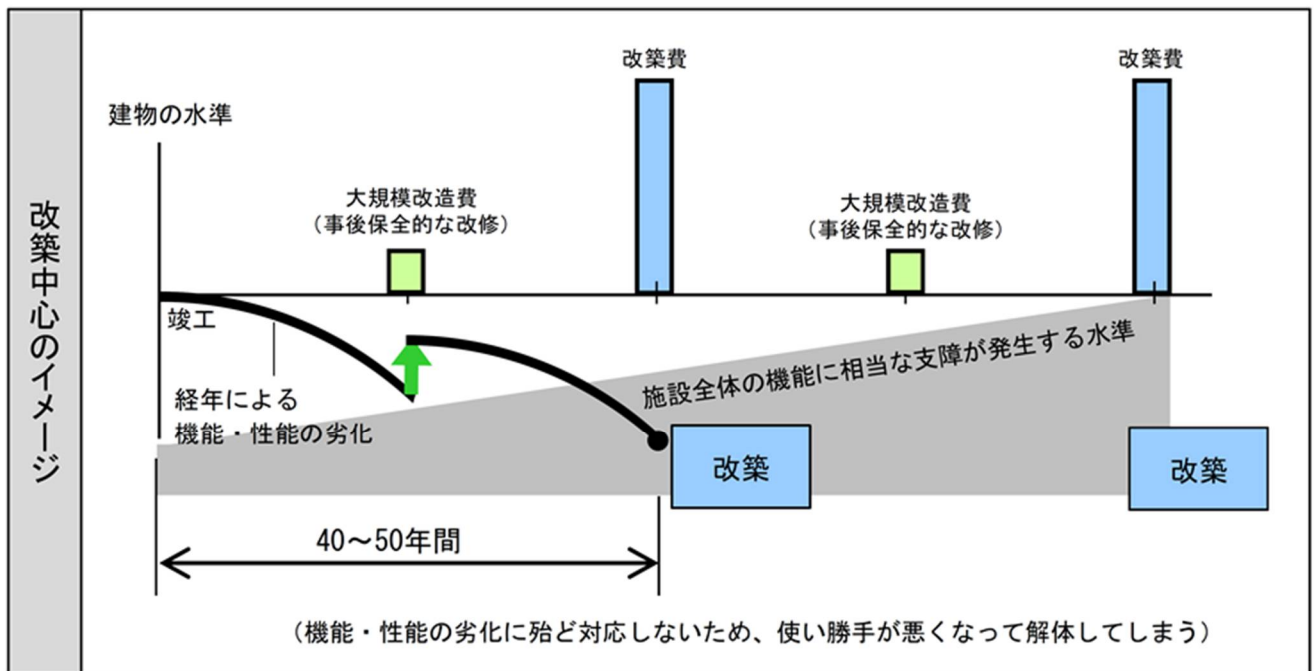
○学習環境の変化への対応

近年の教育内容・形態の多様化や I C T 化に対応した教育環境を整備するため、教育機器の拡充や機能性を向上させます。

○バリアフリー化

令和元年度からコミュニティスクールが導入され、地域の住民が学校施設を利用する機会が多くなったことや、災害時に避難所として学校施設が使用されることが想定されることから、誰もが利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインを取り入れる等の施設のバリアフリー化を図ります。

改築中心から長寿命化への転換イメージ



(5) 長寿命化の実施計画

① 長寿命化改修等の優先順位

各学校施設の建築年数及び劣化度調査における健全度の数値を勘案し、今後40年間で改修をしていく学校施設を10年毎の4期に分けました。

対応方針		第1期	第2期	第3期	第4期
		概ね10年以内に 長寿命化改修	概ね20年以内に 長寿命化改修	概ね30年以内に 長寿命化改修	概ね40年以内に 長寿命化改修
年度		R3～12	R13～R22	R23～R32	R33～R42
校舎	幕別小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	糠内小学校				長寿命化改修
	古舞小学校			長寿命化改修	
	明倫小学校			長寿命化改修	
	途別小学校				長寿命化改修
	白人小学校		長寿命化改修		
	札内南小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	札内北小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	忠類小学校				長寿命化改修
	幕別中学校	長寿命化(予防)		長寿命化改修	
	糠内中学校	長寿命化改修			長寿命化(予防)
	札内中学校				長寿命化改修
	札内東中学校		長寿命化改修		長寿命化(予防)
	忠類中学校		長寿命化改修		長寿命化(予防)
屋内運動場	幕別小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	糠内小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	古舞小学校		長寿命化改修		長寿命化(予防)
	明倫小学校	長寿命化改修			長寿命化(予防)
	途別小学校			長寿命化改修	
	白人小学校			長寿命化改修	
	札内南小学校	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	札内北小学校		長寿命化改修		長寿命化(予防)
	忠類小学校				長寿命化改修
	幕別中学校			長寿命化改修	
	糠内中学校		長寿命化(予防)		長寿命化改修
	札内中学校				長寿命化改修
	札内東中学校		長寿命化改修		
	忠類中学校				長寿命化改修

図 長寿命化改修の優先順位

② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～

今後の学校施設の維持・更新コストは、長寿命化改修への転換を図ったとしても年間4億円程度と見込まれ、事業費が大きな学校施設の整備は、町財政において大きな負担となってきます。

小中学校の老朽化は、早急な対応が不可欠であり、財政計画への反映が待たれるとともに、今後の学校施設の保全に当たっては、維持・更新コストの縮減を図る一方で、施設の運営、活用についても検討する必要があります。また、長寿命化による効果としては、資産の有効活用、財政面や環境への貢献、学校施設配置の最適化に向けた検討時間の確保など、様々な効果が期待できます。

(6) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

幕別町公共施設等総合管理計画の基本的な方針に従い、管理・運営状況等に関わる情報を公共施設全体として一元的に把握し、効率的かつ効果的な維持管理に向けた取組を推進することを目指して、過去の改修、故障の発生状況等をデータベースとして蓄積することとします。

また、今後は日常の点検・調査の結果及び各年度の公立学校施設台帳に基づいて適切に更新を図り、一元管理するとともに、先進的な取組から経費削減に向けた技術や情報等を積極的に取得し、適切な整備を行っていきます。

② 推進体制等の整備

本計画の推進に向け、教育施設を所管する教育委員会が中心となって推進していきますが、幕別町公共施設の一部であることから、幕別町公共施設等総合管理計画との整合性を図りつつ、地域に開かれた施設となるよう計画の進捗状況を管理していきます。

また、施設の設置者として定期的に点検・調査を行い、学校管理者である学校長と連携して施設の状況把握に努めるとともに、町の建築担当部署からの指導・助言を受けながら、効率的・効果的な施設のマネジメントを総合的に進めていきます。

③ フォローアップ

本計画は、10年間という長期の計画であり、学校教育を取り巻く環境の変化や児童生徒数の推移、社会情勢の変化等に対応する必要があるため、5年ごとにPDCAサイクルによる見直しを行い、無駄のない効率的な事業推進の実現性・実行性を確保した計画とします。

1 現 状

- 町民一人ひとりが運動・スポーツを見る・する・楽しむ機会を創り、地域に根ざしたスポーツコミュニティを確立するなど「オリンピックの町」として全国に対する認知度向上を図るため「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を実施（H30～R2）。
- 子どもたちや指導者を対象としたイベントや研修会、大学の合宿や大会誘致・開催の実績を重ねるとともに、高木姉妹の平昌五輪での金メダル獲得の影響もあり、“スポーツ”や“オリンピック”のまちとしてのイメージが徐々にではあるが、町内外に浸透しつつある状況。
- 行政と接点の少なかった町民のまちづくりへの参加を促すためワークショップを開催し、町民から今後のスポーツを軸とした町の施策に対して提言を受けたところ（R1. 10. 27）。

2 課 題

- 施策や事業が他の施策等に連動せず、啓発効果が薄い単発の事業と見受けられる。
- 町民のスポーツやスポーツを軸としたまちづくりに対する意識がまだまだ希薄。
- 幕別町の認知度の低さ。

3 今後の方針

「スポーツの町宣言（仮）」の制定及び「スポーツ推進計画」の策定

- ⇒ 「幕別町総合計画」の基本構想を踏まえ、「スポーツの町宣言（仮）」を基本理念とした「スポーツ推進計画」に基づき、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進する。
- ⇒ 「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」が令和2年度に終了するに当たり、これまでの実績と課題等を踏まえた今後の方針として、策定の過程でスポーツ振興に対する全町一体となった機運醸成が期待できる。

- スポーツ基本法（平成23年6月24日号外法律第78号）
（地方スポーツ推進計画）

第10条 都道府県及び市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第1項の条例の定めるところによりその長がスポーツに関する事務（学校における体育に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

- 2 特定地方公共団体の長が地方スポーツ推進計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、当該特定地方公共団体の教育委員会の意見を聴かなければならない。

- 道内及び十勝管内の宣言の制定及び計画の策定状況

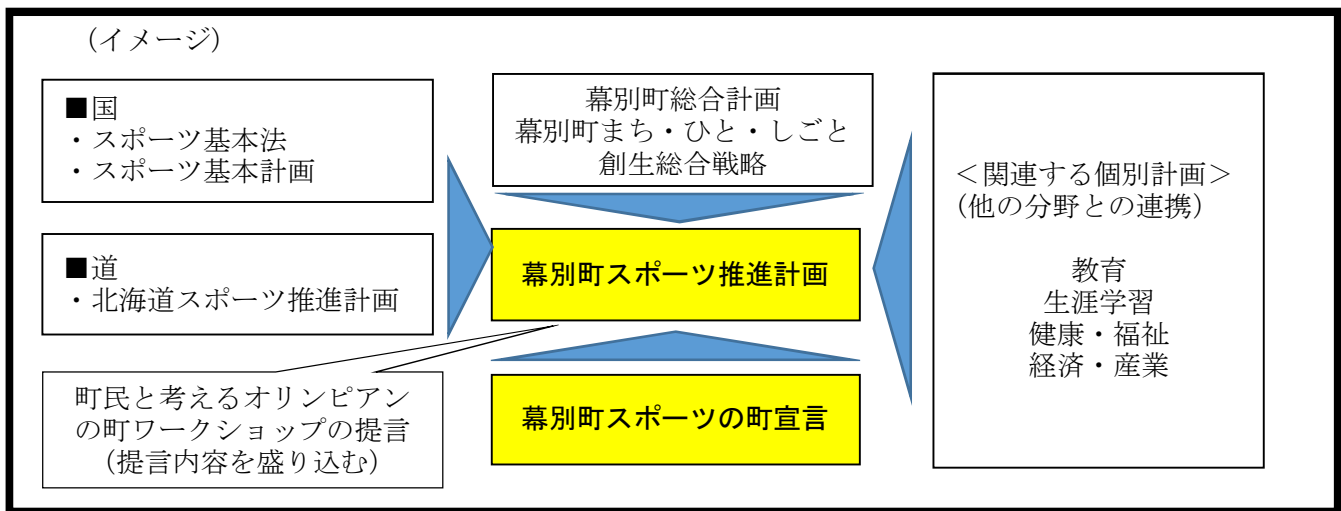
区分	道内	十勝管内	備考
宣言	29市町村	1市（帯広市）	健康を含めると全道で55市町村、管内で4市町。
計画	20市町村	なし	総合計画や生涯学習計画に位置付けている市町村が多い。

○ スポーツ推進計画の特徴

計画期間	3～5年（他市町村では5年間としていることが多い。）
目的	スポーツの振興及びスポーツを活用したまちづくりや地域振興をより一層推進するための基本的な方向性
構成	基本方向や施策を羅列するものや指標を掲げるものなど様々 （国は数値目標を設定するよう奨励しているが、努力義務）
位置づけ	スポーツ基本法第10条

4 策定にあたっての基本的な考え方

「幕別町総合計画」の基本構想を踏まえ、スポーツのまちづくりとなる基本構想として、「スポーツの町宣言」を制定する。また、その基本構想をベースとして、国や北海道の「スポーツ基本計画」や令和元年10月に「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」の提言内容を盛り込み、スポーツに関する施策を体系化した「スポーツ推進計画」を策定する。



5 今後のスケジュール（案）

時期	会議等	内容等
7月	①庁内検討委員会	・計画策定スケジュール及び計画骨子案の説明 ・課題、施策の洗い出しの依頼
	①総合教育会議	・計画策定スケジュール及び計画骨子案の説明
8月	②庁内検討委員会	・課題、施策の整理
9月	学識研究者、スポーツ関係団体等との意見交換	・スポーツ施策等における提言
10月	③庁内検討委員会	・素案の検討
	スポーツ推進委員会、社会教育委員会	・素案の検討
11月	教育委員会会議	・素案決定
12月	パブリックコメント	・案への意見聴取
1月	教育委員会会議	・パブコメ結果報告
	④庁内検討委員会	・パブコメ結果報告
	②総合教育会議	・案の確認
2月	教育委員会会議	・案の決定

6 計画の策定構成（案）

章	節	項
スポーツ推進計画の策定にあたって	計画策定の背景と趣旨	
	計画の基本方針と計画期間	
	計画の位置付け	
	計画の体系	
基本目標と基本方向	オリンピックやアスリートとの親近感を持つことで、スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！	広報・HP・SNS等による情報発信
		町出身のアスリートを応援する体制づくり
		スポーツ合宿や大会の誘致
		気軽にスポーツ施設を訪ねる機会の創出
	スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！	幼少期や学齢期のスポーツ機会の充実と体力向上
		様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進
		コミュニティスポーツの普及
	社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！	地域スポーツ活動の活性化と連携
		スポーツ指導者・保護者・ボランティアの育成
		スポーツ人材の働く環境づくり
		スポーツ大会や用具、送迎などの負担軽減
		クラウドファンディングやふるさと納税の活用
	子どもから大人までみんながスポーツしやすい「環境」をつくろう！	スポーツ実施率の向上
		スポーツ施設の利用方法の改善
		スポーツ施設の環境整備
	「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！	応援大使を活用した宣伝
スポーツと食を繋げる取組		
道内プロスポーツ団体や日本体育大学との連携		

**「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」
からの5つの提言
～スポーツを軸にしたまちづくりについて～**

2019年 10月 27日

「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」 会議参加者一同

目次：

1	はじめに	1
2	町民と考えるオリンピックの町ワークショップ実施概要	2
3	「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」からの 5つの提言	3
4	付録：アンケート結果	11

1 はじめに

幕別町長 飯田 晴義 様

私たちは2018年12月から2019年6月まで5回にわたって、「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」で議論してきました。議論を通して、大きく5項目の提言が出てきました。この提言書はそれらをまとめたものです。

現役のオリンピック選手が5人いることは、幕別町にとって、とても大きな強みですが、私たちを含めて住民の多くは、そのことの重要性には気付いていないかもしれません。

第3回には特別ゲストとして、リオデジャネイロオリンピック7人制ラグビー日本女子代表の桑井亜乃さんにお越しいただき、幕別でのスポーツ環境や現在の活動についてお話しいただきました。私たち自身がオリンピックと接することで「身内意識」を持ち、これまで以上に応援しようという気持ちになりました。改めてオリンピックの持つ影響力の大きさを実感しました。今のタイミングをとらえて、幕別町は「オリンピックの町」という認識を住民みんなが持つための仕掛けをすることが必要だと、今回のワークショップを通じて感じました。

今回のワークショップの大きな特徴は、無作為に選ばれた住民が議論に加わったことです。スポーツに関しての議論をしようとするれば、頻繁にスポーツしている人や関心の高い人が集まることが圧倒的に多いですが、今回集まったメンバーは、もともとスポーツやオリンピックに必ずしも関心が高かったとは言えない人も多くいました。今回のように多様なメンバーによる議論は、これまでにはなかった意見が出てくるので、とても重要だと思います。ただし、無作為抽出の「応募率」は1%程度と、全国平均から見てもかなり低く、また毎回の出席者も多くはなかったことはとても残念です。より多くの方が議論に参加することが望ましいと考えます。

この提言を参考にして頂いて、今後行政・地域・私たち自身が協力しあって自他ともに認める「オリンピックの町」になっていけることを願っています。

令和元年 10月 27日

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ参加者一同

2 町民と考えるオリンピックの町ワークショップの概要

○ 名称

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ

○ 委員

無作為に抽出しワークショップ委員の案内を送付した数	1019 人
応募した委員（応募率）	11 人（1.1%）
短大生	2 人
オブザーバー	5 人

○ テーマ及び各回の議論

テーマ：「スポーツを軸としたまちづくり」

各回の議論

- ・第 1 回会議：2018 年 12 月 22 日（土）
ワークショップ（自分ごと化会議）の概要説明（構想日本）
テーマに関する説明（幕別町）
委員の自己紹介など
- ・第 2 回会議：2019 年 1 月 8 日（火）
テーマについて協議
（子どものスポーツを支えるにはどうしたらよいかを重点的に協議）
「改善提案シート」の記入 など
- ・第 3 回会議：2019 年 2 月 25 日（月）
特別ゲスト 桑井亜乃さんの参加
「改善提案シートの中間とりまとめ」について協議
「改善提案シート」の記入 など
- ・第 4 回会議：2019 年 4 月 23 日（火）
「オリンピックの町づくりのために目指すべき方向と課題」について協議
「意見提出シート」の記入 など
- ・第 5 回会議：2019 年 6 月 29 日（土）
「町民と考えるオリンピックの町ワークショップからの提言書（案）」
について議論
「意見提出シート」の記入 など

3 「町民と考えるオリンピックのまちワークショップ」からの5つの提言

以下の5つの提言は、私たちワークショップ参加者がこれまで議論してきたことや「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提言

- 1 多くの人がオリンピックとの親近感を持つことで、現役オリンピックが5人いることの強みをこれまで以上に町民全体で共有し、常にオリンピックを「応援する」雰囲気醸成しよう！

提言

- 2 送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として、子どもたちのスポーツを支えよう！

提言

- 3 現役オリンピックが5人いる「今」を活用して、スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

提言

- 4 体育館などの運動施設の使い方を見直して、子どもから大人までみんなが運動やスポーツしやすい環境をつくろう！

提言

- 5 幕別町からオリンピックが多く出ている要因の分析を本格的に始めながら、「アスリートと食」を幕別町の中心に据えよう！

提言

- 1 多くの人がオリンピックとの親近感を持つことで、現役オリンピックが5人いることの強みをこれまで以上に町民全体で共有し、常にオリンピックを「応援する」雰囲気醸成しよう！

現役オリンピックが5人いることの認知度はまだ高くないし、そのことが強みだと感じている人も多くない。今回、現役オリンピックの桑井亜乃さんの話を聞いて「身内意識」を持ち、これまで以上に応援しようという気持ちになった。これからは、自分たちが情報の発信者となり、周りの人たちに情報を伝えていく。さらに、行政が積極的にオリンピックの情報を町民へ届け、幕別町応援大使でもあるオリンピックとのイベント開催によって親近感を出すことで、町内全体でオリンピックを常に応援する雰囲気を作っていく。

「提言1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① オリンピアンに興味を持つために、SNSや動画等をチェックしてみる。
- ② 自宅だけでなく、パブリックビューイングや店でスポーツ観戦してみる。
- ③ オリンピックの情報を積極的に見たり、聞いたり、触れたりする。
- ④ 寄付などに協力してみる。

地域

- ① 横断幕やポスターで周知する。
- ② みんなで集まりながらスポーツ観戦ができる環境を作る。
- ③ オリンピックに向けてのトレーニングや食生活、苦労話を発信する。
- ④ スポーツ選手とつながりのある人の紹介やイベントの協力、提案をする。
- ⑤ 地域の有資格者を使って、オリンピックの関心を掴む。(例：薬剤師等でドーピングの説明をするなど)

行政

- ① 新聞、TV、ラジオ等のメディアの他、広報やSNSを使ってオリンピックの活躍を町民へ届ける。
- ② オリンピアンの名がついた冠大会や試合を招致する。
- ③ 子どもたちがオリンピックと触れ合うチャンスをさらにつくる(学校訪問等)。
- ④ スポーツ選手に応援メッセージを送れるシステムを考える。
- ⑤ スポーツをすることだけでなく、見る・応援することの関心も増やす。
- ⑥ オリンピアン SNS に「#幕別町」を使って発信してもらおうようお願いする。

- ⑦ オリンピアンが5人いる「今」のテンションを保ち続けるためにも、ワークショップを年に1回でも続けてみる。

その他

- ① 歴代のオリンピックの記録が残るものがあれば、オリンピックの町と感じられる。
-

2 送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として、子どもたちのスポーツを支えよう！

子どもが運動部に入りたいと思っても、家庭事情で入れない場合があることがわかった。特に子どもの送迎が障害になるケースが多かった。今後は、地域や行政が協力しながら保護者のサポートをすることで将来を担う子どもたちが思う存分スポーツに取り組める環境を作る。また、指導者の影響も大きいことから、町出身のオリンピックを招くなど幕別町の強みを生かした指導者探しを行う。

「提言2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 子どもの時間確保、食事、送迎などを最大限サポートする。
- ② 行政の制度を活用しつつも、行政だけに頼らない自治意識を持つ。

地域

- ① 我が子だけでなく、地域でスポーツする子どもたちを支え、応援する。
- ② 指導者や保護者が同意した上で、乗り合いによる送迎や地域での送迎を考える。
- ③ 使わなくなった用具を欲しい人にあげられる仕組みを考える。

行政

- ① 大会運営や用具購入等の補助金の新設・拡充を考える。
- ② 乗り合い送迎の実態を把握した上でルールの見直しを検討する。
- ③ 送迎のサポート体制づくりを考える。(バス、タクシー、ボランティア等)
- ④ 子どもファンド(子どもがプレゼンして活動費を募る)の創設など、金銭面を支える方法を考える。
- ⑤ 歴代のオリンピックやスポーツ選手を指導員として雇用できる手立てを考える。(報酬を上げること等)

その他

- ① 道内でも十勝がスポーツ大国である要素として、指導者の存在・連携が大きい。途絶えることなくアスリートの能力を伸ばす横と縦の連携は十勝ならではの長である。
- ② 住民主体でクラウドファンディングを募集し、返礼は農作物や食材を提供し、その資金でオリンピックが幕別へ来るための旅費や町内スポーツの支援金とする。用途は、行政ではなく住民によって決定する仕組みをつくる。

3 現役オリンピックが5人いる「今」を活用して、スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

幕別町はパークゴルフの発祥の地でもあり、かつオリンピックを多く出している町でもあるが、日常的にスポーツや運動をしている人は全国と比べて決して多くはない。スポーツをするきっかけには「楽しい」や「カッコいい・憧れ」を感じられることが重要なので、オリンピックが町に来るタイミングで多くの町民との接触の機会を作ることで、その動機付けを行う。さらには産業の視点でスポーツを考えてみる。

「提言3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 町出身のオリンピックの情報を調べて、実際に観戦してみる。
- ② スポーツ体験会に参加し、いろいろなスポーツを試してみる。
- ③ ゲームやスマホに時間を費やさずに、スポーツに関する本やイベントなどに目を向けてみる。
- ④ 町内にあるスポーツチームを人に紹介して、応援してみる。

地域

- ① 地域に身近な存在である総合型スポーツクラブがスポーツイベントを企画する。

行政

- ① 町民が気軽に参加できるイベントやオリンピックが直接指導できるイベントを作る。
- ② 歩いた歩数などでポイント特典制度を考える。
- ③ 広報、SNSなどで積極的にスポーツイベント情報等を発信する。
- ④ 体育館等のスポーツ施設の情報をしっかりと周知する。
- ⑤ 「〇年間通院なし」、「体力測定1級」等の基準を設けて、オリンピックバッジ等を配布する。
- ⑥ スポーツをしない人や高齢者で、「健康チェック」や「体力チェック」などをした人に町指定のゴミ袋等を配布する。
- ⑦ 40代や50代の中高年を対象としたスポーツテストを実施する（有料でも可）。
- ⑧ スポーツで稼ぐ視点から、スポーツ教室、健康サポート、企業協賛、指導者派遣等の内的な事業とイベント誘致、命名権等の外的な事業を整理していく。

その他

- ① スポーツ、観光、文化の育成と連携により、「スポーツに関わる仕事」を作り上げ、日常生活でスポーツに関わる人を増やし、無関心層の意識を向上させる。

提言

4 体育館などの運動施設の使い方を見直して、子どもから大人までみんなが運動やスポーツしやすい環境をつくろう！

体育施設の一般開放の時間が少ないため、幅広い町民が運動やスポーツをしたい時にできる環境になっていないとは言えない。また、町民は施設の利用が無料であることでサークルなどの団体利用が多くなり、一般の人が利用しにくい状況を生み出している可能性もある。施設の有料化や一般開放時間の増加などを検討する。また、道具があれば公園でもスポーツで遊べる場にもなるので、公園にバスケットゴールを設置するなどの工夫も考えてみる。

「提言4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 健康づくりへの意識を持ち、体を動かす時間を作ってみる。
- ② 行政の取組みに興味・関心を持って、周りにも声をかけてみる。

地域

- ① 子どもから高齢者まで、気軽に参加できるスポーツイベントを地域オリジナルでやってみる。
- ② スポーツ参加のない町民へ働きかけてみる。
- ③ 使わなくなった道具を欲しい人にあげられる仕組みを考える。

行政

- ① 体育施設を団体利用が多い状況を見直し、少年団に入っていない子どもなど誰もが利用しやすい施設にする。
- ② 体育施設の利用料を見直す。(例：大人は有料、子どもは無料等)
- ③ 町内会、老人クラブへの健康サポート(保健師や運動指導者の派遣)を行う。
- ④ 単体のスポーツクラブ、少年団、部活動から複合型スポーツ団体へ変えていくように支援する。
- ⑤ 生涯スポーツの観点から、スポーツをしない人に健康寿命を伸ばす取組みをアプローチする。

その他

- ① 地域と行政が協力して、学校や自宅の近くの公園等で練習できるような環境を整備する。(例：バスケットゴールなど)

提言

5 幕別町からオリンピックが多く出ている要因の分析を本格的に始めながら、「アスリートと食」を幕別町の中心に据えよう！

オリンピックが多く出ていることの明確な要因はまだわからないことなので、協定を結んでいる大学などと協力して本格的な要因分析を行う。並行して、幕別は農業が基幹産業なので「アスリートと食」にスポットを当てて、生産者や飲食店などと行政が協力して、「オリンピック監修」の食のレシピ開発や研究などを進め、町の強みとしていく。

「提言5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民 ① 日常の買い物の中から意識して、幕別産の食材を買う・食べる。

地域

- ① 幕別町の生産者（農家）等と触れ合えるチャンスを作る。
- ② 地元生産者とアスリートと子どもを結びつける事業を行う。

行政

- ① 協定を結んでいる大学などと協力して、町内出身のオリンピックが輩出する要因の分析を行う。
- ② オリンピック輩出要因研究の検証結果を受けて、幕別産の農産物を使ったアスリート食をスーパーに置いたり、給食のメニューに出してみたりする。
- ③ 大学等の研究機関と連携し、栄養学をもとにスポーツをする人にとって補うべき栄養素や食べ物を発表・紹介する。
- ④ オリンピック監修のもと、家庭でもできるアスリートレシピを作って配る。
- ⑤ スポーツ選手の食事メニューの紹介本を出してみる。

その他

【参考意見】

幕別町が5年後、具体的にどのようなようになっていれば、「オリンピックの町」として持続していると言えるか。

- ・町民はもちろん十勝、道内でも幕別と言えば「オリンピックの町」だよねと言ってもらえる。
- ・どの世代でもスポーツ参加者や健康な人が増えている（アスリート輩出、生涯スポーツ、健康寿命）
- ・日常的にオリンピックと触れ合える環境にある町（例：スポーツカフェ、アスリートの看板、アスリートの情報提供、スポーツと食のイベント等）
- ・全国有数のスポーツが盛んな町になる。
- ・全国大会レベルへ出場するアスリートがいる。
- ・現役のオリンピックがいなくても関連したイベントなどが行われている。
- ・幕別町の人口が増えている（出生数、移住者）
- ・オリンピックの町だという事をひたすら追いつける（伝え続ける）。
- ・「オリンピックの町」は結果であり、私たちが目指すのは、「スポーツに溢れる町」ではないか。提案されたことが、すべて実行されれば現役オリンピックが何人いても、「オリンピックの町」と呼べるのではないか。

4 付録：アンケート結果

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ（第1回）

会議参加者アンケートまとめ

回収数：13人

1. 会議に参加してみていかがでしたか。

とても良かった	良かった	あまり良く なかった	まったく良く なかった	どちらとも いえない
9人	2人	0人	0人	0人

※無回答2名

2. ワークショップに参加しようと思った理由は何ですか。

- 自分の視野を広げようと思ったから
- スポーツには全く興味が無いのですが、行政に少しでも関わりを持てたらと思いました。
- いろんな立場、いろんな考え方を知りたいと思って参加しようと思いました。
- スポーツ熱が幕別にはあり、最近熱の入り方が違うと思ったので
- 色々の分野の方と話ができること
- 今後もスポーツ環境、サポートなど協力したいと思ったこと、たくさんの選手が幕別町から育ってほしいと思ったため
- テーマから内容が想像できず、知らないことに参加できると思い、ワクワクしてきたので参加してみようと思いました。
- 大学のゼミの教授に勧められたのをきっかけに、行政に関わってみようと思ったから
- 先生の紹介
- 十勝、スポーツ、食育等の分野に関することを応援させていただきたい

3. 幕別町から5人の現役オリンピック選手が輩出されていることをご存知でしたか。

知っていた	知らなかった
9人	4人

4. 幕別町の「オリンピックの町づくり」（町民一人ひとりが運動・スポーツを見る・する・応援することができる環境を作り、スポーツを軸としたまちづくりを行うこと）についてお考えをお聞かせください。

賛成	どちらかと言え ば賛成	どちらかと言え ば反対	反対	分からない
11人	2人	0人	0人	0人

【賛成の理由】

- 町民がスポーツと触れ合うことは大切だと思ったから
- オリンピアンを軸に生涯スポーツをまちづくり、まちおこしに生かせたらと
- このタイミング・機会を逃がさず、幕別町の力で生かしてほしい（生かしたい）です。
- たくさんのスポーツ選手が育ってほしいので
- 町を盛り上げるのにとっても良いと思う。スポーツ以外でもどんなことを盛り上げるでも良いと思う。食や健康などつなげられたらいいなと思っています。
- 魅力あるまちづくり、町民の生活水準向上につながる可能性が開けると思う
- 人生を豊かにするためにもスポーツは大切なものだと思います

【どちらかといえば賛成の理由】

- まちおこしの手段の1つとして、スポーツを使うのも有りだと考えるから
- オリンピック選手を活かすことは良いことだと思いますが、町民一人ひとりの運動意識の向上という点ではアスリートというのはハードルが高い気がします。

5. 幕別町から連想するキーワードを3つ記入してください。

回答キーワード	人数
パークゴルフ	7人
オリンピック	4人
高木姉妹	3人
スピードスケート	5人
長いも	2人
食	2人
スポーツ	1人
田舎	1人
ビート	1人
農業	1人
助成金やサポートなど多い	1人
スキー場	1人
野球	1人
スポーツ	1人
元気	1人

6. 次回以降のワークショップに向けての要望や今日の感想等がありましたらご記入ください。

- あっという間の時間でした。今回のように論点整理された進行で盛りだくさんだったと思います。
- 時間帯に工夫か土日が良い
- スポーツ環境（コミセン、スポーツセンター、百年記念ホール）の情報不足など私も思います。広報などで紹介するとよいと思われます。イベントなどはすごく良いと思います。色々なスポーツにチャレンジすることが良いです。
- 面白い話が聞けたと思う。活かせる場ができて、広がったらと思います。次回も時間の都合をできるだけつけて、出席したいと思います。
- 今後のワークショップは、自分なりの意見を出して、少しでも有意義な意見を出せるよう努めたいと思います。高齢の人が多いいと思ったら、意外にも若い人がいたので安心しました。
- これからの展開が楽しみです。
- メディア発信に対して要望があれば聞いてみたい、幕別町のみなさんのお話が聞けて勉強になった

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ（第2回）

会議参加者アンケートまとめ

回収数：10人

1. 第2回ワークショップに参加してみていかがでしたか。

とても良かった	良かった	あまり良く なかった	まったく良く なかった	どちらとも いえない
6人	4人	0人	0人	0人

2. 本日の感想等をご記入下さい。

- 色々な意見が聞けて良かったです。
- 幕別町はオリンピック選手と関われる機会が多いと思いました。小学生と中学生で色々な考え方が違うんだなと思いました。
- スポーツをする・見る・応援する、色々な見方があると感心しました。
- これからの時代、デジタルもアナログも多極化していく中で方向性を出していくというのは、これが正解と結論が出ないテーマだが、いろいろな立場でいろいろな意見交換ができて、積極的な話し合いで自分の考え方も見直せて財産になります。傍聴の方が多くて、びっくりです。
- 有意義な意見が多いと感じ、自分の考え方が変わったりした。
- オリンピックについての関心が中学生でかなり低くなっていることがとても印象的でした。体力をつけることを目標とするのであれば、加入制ではなく、その日で集まった人でやるような活動があっても良いと思いました。
- 1回目よりも2回目の方が、1人1人が具体的に幕別とスポーツ、オリンピックの町・・・ということ意識した意見が出ていた。また、現状の”子供達”とスポーツについて知ることができた。
- 今回もいろんな立場の考えを聞くことができた。みんなが同じ方向を向いて、同じ考えではないことに感動している。刺激がある。6回目までどんなアイデアが出てくるのかが本当に楽しみ。
- これからの展開が楽しみです。
- 子どもにスポーツの興味を持たすこと

3. 次回以降に向けての要望やその他ご意見等がありましたらご記入ください。

- 開始時間をもう少し早めてほしい
- 次回のワークショップでは障がい者向けスポーツは何があるのか等の資料がほしい。

町民と考えるオリンピックの街づくりワークショップ（第3回）

会議参加者アンケートまとめ

回収数：6人

1. 会議に参加してみていかがでしたか。

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
3人	2人	0人	0人	0人

※無回答1人

2. 桑井亜乃選手へ一言（応援メッセージなど）。

- 頑張って東京オリンピックへ参加してください。
- 2020年の東京オリンピックで走る、トライする桑井さんを楽しみに応援しています。ぜひFM-JAGAにも出演してラジオでも発信してください。
- オリンピアンとして、応援大使として、コーチとして、会社員として、それぞれの場面で前を向いて真剣に取り組んでいる姿、感動しました。
- 体調崩さず、試合等で最高のパフォーマンスができるように応援しています。
- どんなことがあっても応援しています。頑張ってください。
- オリンピックへの強い想いをあらためて感じました。セレクションに向けてプレッシャーもあるかと思いますが、自信を持って突き進んでください！身体メンテナンス、ケガには気を配って、ベストな状態で2020を迎えてください。家族全員で応援しています。

3. 桑井亜乃選手のようなオリンピック選手がいることをまちづくりにいかすためにはどうすれば良いと考えますか。

- 機会あるごとにPRをする。
- 何か大きなイベント等に取り入れる。
- 食や健康等幅広い角度からオリンピックに触れるチャンスを増やす。まずは全町民に知ってもらう。
- 今回のように地元にもまず顔を出して頂くこと、一緒にスポーツをしてもらうこと。
- SNSの活用で知ってもらう。
- イベントなどに指導者として来ていただく。
- トークショーや練習メニューと一緒にやるなど子どもたちが興味のある内容で行う。
- 各アスリート（オリンピック）の名称をつけたロードや建物を設置して常に触れる機会を生み

出す。

- 一言ではまとめきれない難しい問いです。「まちづくり」の視点、ターゲット等焦点化して議論しないと、果てしなく議論が続くような気がします。一応改善提案シートには記入してみました。

4. 本日の感想等をご記入ください。

- 少し聞きにくいところがありました。
- 桑井選手からのオリンピックを目指してという言葉には力があり、日本代表になる方のエネルギーはすごいなと思いました。こうして生の声を聞けるのはとてもありがたい時間でした。
- オリンピック選手に直接会えて質問など出来て、色々な情報を教えていただき良かったです。今までの気持ちや今後の目標、自己管理、食生活など勉強になります。
- 改めて幕別町の魅力や潜在能力を発見でき、仕組みづくり（オリンピックの町創生）が楽しくなりました。
- 前回の意見がすぐ実行されたこと（桑井さんの来幕）に驚きです。スピード感はこういう企画には必須ですね。オリンピック本人がどう感じているか、当事者を交えての会議が実現できたことに感動です。オリンピックが地元を大切にし、地元を愛していることの表れですね。まちがオリンピックを支え、オリンピックがまちを支えるというのは理想ではないか。

5. 次回以降に向けての要望やその他ご意見等がありましたらご記入ください。

- ホワイトボードの赤字がとても見づらい。
- 予定の時間までに終了するように。
- 伊藤さんから他の町や市での取組や議題もとても参考になります。色々なお話を聞かせて頂けると嬉しいです。
- 今回は人数が少なく、特に学生の考えが聞けなかったのが残念でしたが、新たに参加された方のまた違った立場での意見も参考になりました。私自身も何とか都合をつけて参加しています。貴重な回数での検討なので、できるだけ全員参加で実施したいものです。

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ（第4回） 会議参加者アンケートまとめ

回収数：4人

1. 第4回ワークショップに参加してみていかがでしたか。

満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
2人	2人	0人	0人	0人

2. 本日の感想等をご記入ください。

- 体育館の利用について、改善が必要だと思いました。
- 現場の意見、町側の意見、どこの社会も同じだと痛感。
- もう少しフリースタイルな感じで話せると良いかもです。学生の方の意見（若いので）すごく新鮮。提案シートを書く時間がない。（項目が多い）
- 最後の方に今まで出た意見をまとめていたので、わかりやすかった。

3. 次回以降に向けての要望やその他ご意見等がありましたらご記入ください。

- 意見がまとまっていないのに、意見を求められる時が多かったため、まとめる時間をつくってほしい。
- 無作為で選出したメンバーなのに、一回も参加していない方や一度しか参加していない方、せっかくのチャンスがムダになっている。自分で応募したはずなのに、悲しいです。

町民と考えるオリンピックの町ワークショップ（第5回） 会議参加者アンケートまとめ

回収数：8人

1. あなたは、ワークショップに参加する以前に市町村役場とどの程度の関わりがありましたか？

ほとんど行った ことがなかった	年に数回は 行っていた	頻繁に 行っていた	その他	未回答
2人	3人	2人	1人	0人

2. ワークショップに参加してみてもいかがでしたか。

非常に満足	満足	どちらとも 言えない	不満	非常に不満	未回答
2人	5人	1人	0人	0人	0人

理由

- なかなか経験できない場に参加できたから。
- 孫達に話できる。
- 参加できる時間が十分になく自分が納得できるほど参加できなかった。
- 様々な立場の方の話を聞けてとても良い機会になりました。
- いろいろな団体の人がいることが改めてわかった事です。

3. 今回のテーマ「オリンピックのまちづくり」は住民が考える内容として、どう思われますか？

とても 良かった	まあまあ 良かった	どちらとも いえない	あまり良く なかった	まったく良く なかった	未回答
3人	3人	1人	0人	0人	1人

4. ワークショップに参加したことで、意識に変化はありましたか。

変わった	変わって いない	分からない	未回答
5人	2人	0人	1人

具体的に変わった点

- スポーツに関心のない人、先輩の方等の考えを聞くことが出来たから。
- オリンピックの動向をチェックするようになった。
- 行こうと思う意識はあったが、自分の生活の中にワークショップに参加したいという意識をより高め、時間を割くことができなかった。
- 自分から発信していくことの大切さが分かりました。
- 町の取組みが少しわかる用になった。

5. ワークショップに参加したことで、行動に変化はありましたか。

変わった	これから変える	変わっていない	わからない	未回答
3人	2人	2人	0人	1人

具体的に変わった点（変える点）

- 運転中(停車中)にオリンピック関連の掲示物を探すようになった。
- 意識的に身体を動かすようになった。
- オリンピアンの方である事の意識。

6. ワークショップを終えて、今回のテーマ（オリンピックのまちづくり）に『私は今後、こうやって関わることができる、関わっていきたい。』などあれば、ご記入下さい。また、今回のワークショップの提言書はどのように活用してほしいですか。

- 業務上、常に関わっていきます！
- 町が一生懸命応えている、素晴らしいです。

7. 今後のワークショップで議論した方が良いと思うテーマがあればご記入ください。

- 教育（勉強）

8. その他、全体を通じた感想やコメントをご記入下さい。

- 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ参加させて下さってありがとうございます。
- 5年後の検証をしましょう。
- 他のことでもワークショップをして決めていけるような協議できる場が増えたらいいですね。

「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」参加者

- 松岡 弥那子（無作為）
- 森本 菜々（無作為）
- 宗岡 美穂（無作為）
- 阿部 麻美（無作為）
- 中村 綾（無作為）
- 杉山 友美（無作為）
- 田中 理恵（無作為）
- 西山 乙代（無作為）
- 山越 正幸（無作為）
- 朝川 泰孝（無作為）
- 内野 三八男（無作為）
- 赤羽 葵（短大生）
- 日光 純菜（短大生）
- 和田 良治（オブザーバー）
- 市川 徹（オブザーバー）
- 渡部 尚樹（オブザーバー）
- 稗田 道也（オブザーバー）
- 後藤 朋子（オブザーバー）

※1 名前の公表に、承諾された方のみ掲載しています。

※2 会議参加者は全体で18人。そのうち11人は高校生以上の住民基本台帳から無作為に選ばれた1019人に会議への参加案内を送付し、応募があった幕別町民。

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸（構想日本 総括ディレクター）

<特別ゲスト>

【第3回】

- ・桑井 亜乃（幕別町応援大使・リオデジャネイロオリンピック7人制ラグビー女子日本代表）